

よっ!!

ONE FOR ALL! ALL FOR ONE!

— 2006 —

第 7 号

8 月 15 日

暑中お見舞い
申し上げます。

盆休み
ゆつくり・・・?



統括管理部

川砂の代替材料を試験練りで検討

日本建築総合試験所 MCON材料変更の届出を明示

- 阪神地区では、実施時期は確定していないものの、中国商務省と税関総署の輸出禁止の発表をうけて、細骨材の産地の変更を検討せざるを得ない状況となっています。
- コンクリート材料の性能評価を管轄する国土交通省は、基本的に高強度コンクリートの大臣認定 (MCON) についての骨材変更を認めておりません。
- このことから、財団法人日本建築総合試験所 (日総試) は、国土交通省と交渉して、骨材変更に対して以下の手順を示すと共に、コンクリート材料性能評価委員会は『大臣認定の建築材料等の変更にもなう指定性能評価機関への報告のお願い』を、日総試で大臣認定を取得した工場及び関係組織に送付しています。
 - ① 任意の時期に実機試験を行い、標準養生28日の圧縮強度を測定する。
 - ② 変更前後の圧縮強度について比較をおこなう。
 - a) 統計的手法等による検定結果、有意差がないと判断される場合
骨材の変更前後で、強度の発現性に与える影響がないため申請時と同じ調査でコンクリートの製造が可能である。
 - b) 統計的手法等による検定結果、有意差があると判断される場合
骨材の変更前後で、強度発現性が異なるため、セメント水比関係式及びS値を再検討する必要がある (再申請が必要)。
 - ③ 変更がある場合、所定の様式により日総試に届出が必要。
 - ④ 有意差がないと判断されてる場合であっても、申請時の別添・別表・付表は変更できない。
注：川砂使用から石灰砕砂に変更する場合は、川砂の品質基準に適合する砕砂を選定しなければならない。
(できない場合は再申請)
 - ⑤ 骨材変更の場合は、日総試と詳細を打ち合わせしたほうがよい。

2006年5月10日(水)

東奥日報

ニュース

中国が天然砂の輸出禁止へ 日本の一部業者に影響か

【北京10日共同】中国が資源や環境の保護を理由に、天然砂の輸出を全面的に禁止する措置を打ち出したことが10日までに明らかになった。輸出禁止の実施時期は確定していない。

日本の約2000の砂利業者が加盟する日本砂利協会によると、日本で建設用コンクリートに使われる6%以上は国内産、輸入は数%にとどまるが、その大半が中国産のため、輸出が実際に禁止されれば、依存度が高い中国・四国地方の一部業者が影響を受ける恐れがあるという。

中国商務省と税関総署は2月1日、いったん6月1日からの輸出禁止を発表したが、その後、実施を延期した。国内の輸出企業に通知したとみられる。

(共同通信社)



船に取り付けられたチェーンバケットで川砂を採取



専用埠頭への運搬船



川砂輸出専用埠頭



川砂 (福建省閩江)



海砂 (佐賀県唐津沖)

- 川砂に代わる細骨材を検討している新 J I S 対応グループは、海砂ならびに石灰砕砂を含めた材料で、複数回室内試験練りを行い、性状の確認を終え、現在、データを集計しています。
- 担当責任者の見解は、
「海砂使用のコンクリートは、川砂使用のコンクリートと同じ性状を示し、石灰砕砂使用の砕砂・砕砂コンクリートは、石灰砕砂の混合比率が多いほど性状が改善され、強度についても若干高めとなっている。価格と供給および大臣認定との関係を検討し、方向性を提示したい。」
- これらの結果ならびに、新材料への移行の方向性は、9月9日の技術連絡会において報告される予定になっています。

学 自 貧 っ 思 積 年 己 短 高 知 自 学 志 才 学 生 才 学 道 穩 志 無 徳 静 ず
ぶ 業 し く 貧 い は 重 み は き な め 識 惚 問 が 能 ぶ ま 能 問 は や は 欲 養 ぐ
べ なく 悲 枯 年 時 重 制 御 する と 御 の 完 け 開 遠 い で た け 身 了
き なら 観 れ と 共 に 共 に 共 に 成 成 成 成 成 成 成 成 成 成 成 成
あ ない する の は 去 り 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に
いた る の は 去 り 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に 共 に
め にも



誠子書

諸葛亮孔明

IS09001:2000

更新審査

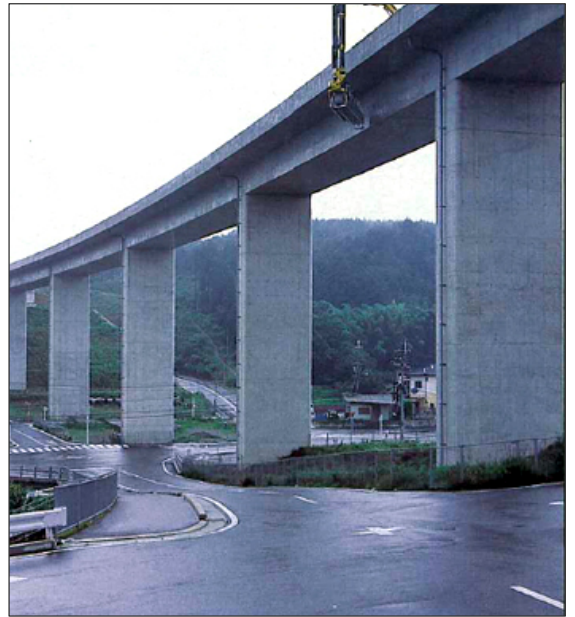


2006年10月1日～12月31日

上記の期間に、更新審査を受審しなければなりません。

端にも置けない橋の行方

京奈和（けいなわ）自動車道垂井高架橋



垂井高架橋（ラーメン構造）

- 平成14年4月に竣工した橋本道路垂井高架橋（和歌山県橋本市）は、ひび割れなどの損傷が激しいため、供用が見合わされていた。今年度7月、施工業者（日本高压コンクリート）と近畿地方整備局は、高架橋を補修補強工事することで合意した。
- 同橋は、『上面増厚工法+外ケーブル法+ひび割れ注入工法+表面含浸工法+表面被覆工法』により補修補強され、19年2月完成・供用開始予定である。
- 上面増厚工法は、呼び強度36で膨張材とファイバーを混入した生コンクリートの使用が検討されている。この補修補強工事費6億円は、施工業者が負担することとなった。また、同橋は補修後10年間の監視が必須とされ、この費用3億円についても施工業者が負担する。
- 監視終了時には、土木学会を中心とした第三者委員会の評価を受け架け替えや最補修、監視続行などが決定されることになっている。なお、監視期間中に同委員会が必要と判断すれば架け替えることに決定された。

和歌山県記者発表（近畿地方整備局関連）

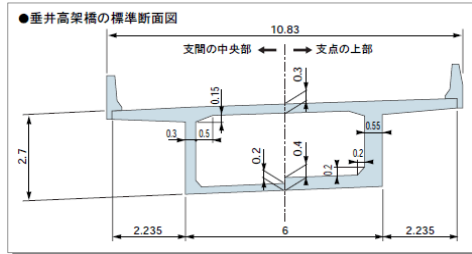
平成18年7月27日

土木学会コンクリート委員会

垂井高架橋の損傷に関する調査特別委員会
(平成18年度第1回)の開催結果について

平成18年7月7日

橋本道路垂井高架橋上部工事における
瑕疵（かし）修補について



KEN-Platz (<http://kenplats.nikkeibp.co.jp/>)



床版上のひびわれ

JIS最新発行 2006年7月

財団法人 日本規格協会
Japanese Standards Association



コンクリート試験関連



規格番号	標題	公示
JIS A 1102:2006	骨材のふるい分け試験方法 Method of test for sieve analysis of aggregates	改正
JIS A 1104:2006	骨材の単位容積質量及び実積率試験方法 Methods of test for bulk density of aggregates and solid content in aggregates	改正
JIS A 1106:2006	コンクリートの曲げ強度試験方法 Method of test for flexural strength of concrete	改正
JIS A 1108:2006	コンクリートの圧縮強度試験方法 Method of test for compressive strength of concrete	改正
JIS A 1109:2006	細骨材の密度及び吸水率試験方法 Methods of test for density and water absorption of fine aggregates	改正
JIS A 1110:2006	粗骨材の密度及び吸水率試験方法 Methods of test for density and water absorption of coarse aggregates	改正

口語訳ISO9001:2000

第7回



序文

0.4 他の経営システムとの組み合わせ

◆ISO14001との関係

ISO9001とISO14001とを一緒に使う会社（または組織）のことを考えて、2000年版では、ISO9001とISO14001の考え方や構成を出来るだけ近くしました。

◆他の経営の仕組みとの組み合わせ

ISO9001の中では、品質以外の経営の仕組み（環境に関わる仕組み、労働の安全に関わる仕組み、財務に関わる仕組み、リスクマネジメントなど）について触れていません。

しかし、実際の会社（または組織）の活動の中では、品質の仕組みと他の仕組みを組み合わせたり、一つの経営の仕組みとしてまとめて動かすことが行われます。そこで、ISO9001は他の仕組みと合わせやすいように考えて作りました。

会社（または組織）がISO9001に従った品質の仕組みを作る際に、既に動いている他の仕組みと共通する部分があれば、それを利用することも可能です。

序文が終わり、次回より本文に入ります。



JIS 新JIS認証速報

(認証日：平成18年8月2日)

財団法人 日本建築総合試験所
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

株式会社西井商店千代田生コン 認証番号:GB0506033

株式会社西井商店堺臨海生コン 認証番号:GB0506034